

観光資源を再発掘「巨樹探索ツアー」の取組 (三宅島観光協会)

1. 背景

三宅島は噴火を繰り返す活火山である。雄大な火山島景観を島内のいたる所で観ることができる稀有な地域であるが、2000年の噴火では島の緑の50～60%が消失した。その中を生き抜いた巨樹があり、2016年には日本最大級となる「スダジイ」(幹周19.27m)が発見され、その後の調査で巨樹が2000本以上生育していることが判明した。村内では、過酷な環境の中で生き残った巨樹を保護していく気運が高まった。

*スダジイはブナ科シイ属の常緑広葉樹。丈夫であるため巨木になりやすい。

*巨樹・巨木の定義・・・【巨樹】地上1.3mの位置で、幹周が3m以上の木
【巨木】地上1.3mの位置で、幹周が5m以上の木

2. 地域の資源を再発掘

島のダイナミックな景観は以前より認知されていたが、噴火の中で生き続けてきた巨樹を島の宝と捉え、「観光資源」としての活用を検討した。最初の取組として、巨樹の認知度を上げ、観光資源になり得るかの実証として2018年11月・2019年1月にモニターツアーを実施した。ツアーは3日間(船中1泊)の行程で、自然ガイド帯同のウォーキングツアー及び、専門家による三宅島の植生についての講習会等を実施。ガイドや専門家と歩くことで、自然への理解を深めてもらう契機とするとともに、林道ルートの開拓を実施した。募集人数20名に対し両日完売の人気を博し、終了後のアンケート結果も非常に好評であったことから、巨樹が観光資源となり得ることが証明された。

モニターツアー実施後には、調査・情報収集により巨樹・巨木林のデータベース化及びパンフレット化へと展開し、次年度以降の新たな着地型旅行商品の造成へと繋げた。さらに、ツアー実施や調査等の取組を通して、島内の活動団体(三宅島巨樹の会「やどり木」)と連携を図ることができた。

3. 今後の展開

上記の結果を受けて、島内関係者及び自然ガイドと協力してウォーキングコースを増やし、観光協会主催ツアーとして高価格帯の旅行商品を造成することを目指している。これらにより、「巨樹・巨木林の島」としてのブランド化を推進すべく活動している。一方で、巨樹のある場所は公私の所有者がおり、道が整備されていない場所等も多い。現在、東京都版エコツーリズムの登録に向け、自然資産の保全と活用に向けたルール作りやガイドの人材育成にも取り組んでいる。

また、取組当初から目標の一つであった全国巨樹・巨木林の会(1993年設立)主催の「巨木を語ろう全国フォーラム」誘致について、2020年10月に三宅島での開催が決定した。島内の活動団体が当会の会員だったことやモニターツアーの委託事業者の働きかけ等もあり実現し、観光協会と村が連携して、受入準備を進めている。このように地域資源を深耕・再発掘することで、郷土愛を醸成したいと考えている。

<おわりに>

噴火により多大な影響を受けてきた三宅島ですが、その影響をプラスの要素に見立て、今回は巨樹に着目し、観光資源としての活用を進めています。観光が物見遊山型ではなく、コト体験重視にシフトして久しいですが、「その地域ならではの」要素はとても重要です。火山島ならではの景観を活かすことに加え、

ガイド等「人」を介した案内により理解を深めてもらう点や、所有者や場所への敬意を払っている点も三宅島らしさとして注目すべきポイントと感じます。スポーツ関連イベントや大会のツアー造成等、積極的にオリジナル企画を実施されている三宅島観光協会に今後も期待しています。

（地域振興部事業課 地域支援窓口 島しょ担当 平田）

※モニターツアーは東京観光財団「地域資源発掘型実証プログラム事業」の一環で実施

◆関連リンク

三宅島観光協会 HP <https://www.miyakejima.gr.jp/>

